

独立自営就農① 定秀 悠介さん（32歳）

～社長になる！人生の目標を農業で実現～

<プロフィール>

- 出身地：島根県松江市
- 就農地：琴浦町
- 就農品目：秋冬ブロッコリー、スイートコーン、水稻、水稻受託作業
- 就農時期：平成29年4月（31歳）
- 家族構成：妻
- 前職：自動車メーカー開発担当



<現在までの道のり>

- 平成26年頃より就農について検討開始
- 平成28年1月 会社を退職し、鳥取県へ移住
- 平成28年2月～平成29年3月 農大にてアグリチャレンジ科、スキルアップ研修を受講
- 平成29年4月 自営開始

<活用した研修>

- 公共職業訓練「アグリチャレンジ科」（平成28年2月10日～4月28日）
就農相談において、まずは農業の基礎を習得することを促され受講。農業機械の扱いを覚え、座学で農業の基礎知識を得られたのはさることながら、同じ志を持つ多くの仲間が得られたことは、自分にとって大きなプラスとなりました。
- スキルアップ研修（平成28年5月1日～平成29年3月17日）
就農品目の栽培管理技術を習得するため、引き続き約1年間受講。この研修を通じて、様々な野菜品目の作業に携わり、頭だけでなく、体感によってブロッコリーを就農品目を選ぶことができた気がします。また、大規模ブロッコリー農家での実践研修も経験でき、実践の作業ペースの体得や農家の様々な工夫（作業場のレイアウトなど）を知る機会となり、自営に向けて貴重な経験となりました。

1 就農の動機

大学卒業後、自動車メーカーで開発業務に従事してきましたが、自分の仕事の成果が実感しづらいことから、徐々にやりがいが見いだせなくなっていました。

自分が求める仕事を模索し始めた時、ふと、鳥取で農業を営む親戚の姿が目に見え、時々農作業を手伝うようになりました。その経験を通じ、農業の楽しさとやりがいを肌で感じたことが、就農の決意につながりました。

<研修中に心掛けたこと>

- ★1年後には、自分で段取りを組み、自分1人で作業を実践していくことを常に意識
- ★JAブロッコリー生産部・青年部の方とのつながりづくり
- ★肥料、農薬の扱いに関する理論的理解

2 就農準備

①家族の同意

両親、兄弟、親戚に、就農したい気持ちを打ち明けたところ、後継者のいない親戚が自分の基盤を譲る前提で応援してくれることとなり、家族の賛同も得られました。

②就農品目の選定

親戚は水稲作が主軸だったため、経営の安定・発展を考え、就農にあたっては野菜品目を加えるつもりでした。琴浦町で生産される主要品目から選定しようと考え、研修で露地野菜の白ねぎ・ブロッコリー、施設野菜のミニトマトを候補に検証。

「1人役でも作業がこなせ経営が成り立つ」「新たな設備投資が少なくすむ」「回転が速く、短期で経験値が増やしやす」という観点から、ブロッコリーに取り組みようと決めました。

③資金繰りの作成

自営就農は起業なので、事前の自己資金準備は必須です。また、サラリーマンとは異なり、毎月定まった収入が入るわけではないので、自分が想定する経営規模でどの程度の収入・支出があるのか、年間の生活費がまかなえるのか等、しっかり検証しておく必要があると考えました。

そのため、会社員時代に貯金額を踏まえた簡単な資金繰りを作成し、生活していける確信をもった上で、就農を決断した経過があります。

④就農地の確保

親戚の経営地の一部を借り受けたり、近隣で作れなくなった方の農地を親戚の紹介で借りることができました。地域での親戚の信用のもと、車で10分以内の範囲で大きな苦勞なく農地を集積できたことは、大変有り難いことでした。

⑤機械・作業場の確保

就農時に、管理機、ブロッコリー定植機、予冷庫を自分で購入しました。トラクター、コンバイン、動噴、作業場については叔父から借用でき、初期投資額としては200万円程度に抑えることができました。

⑥住居の確保

農業大学の研修調整員の支援により、琴浦町の町営住宅に入ることができ、就農時の家賃負担が少なくなりました。

⑦就農計画の作成

研修中に農業大学の支援で原案を作成し、その後、普及所の指導を受けながら完成させました。原案作成開始から完成までに約半年かかりました。

4 経営を開始しての感想

○農業は雑草との闘いであることを痛感！油断すると、あっという間に作物を追い越して、ほ場が雑草だらけになった失敗を経験。

○会社員と異なり、何をすることも自分で判断できる自由と楽しさがある。ストレスがない生活を送れるようになった。

5 これからの目標

従業員を雇用し経営規模を拡大できる体制を作ることが当面の目標です。現在は秋冬作型しか栽培できていないブロッコリーも、人員と生産基盤が整えば、初夏どり作型にも取り組むことができ、収益を上げやすくなります。しっかり儲けて認定農業者になり、その先には、法人化し社長になることを見据えて、さらに努力していきたいと思います。

6 就農を希望する方へのアドバイス

就農を支援するために、様々な補助金が用意されていますが、補助金に頼りすぎるのは危険です。まずは資金繰りを立ててみることに！それによって自信が生まれ、生活設計への不安も消えるはずですよ。